

2025年02月25日（火曜日）安房小学校にて森林教室を実施

安房小学校5年生26名に対して、屋久島森林管理署及び当保全センターで森林教室を実施しました。

当日は、教室内で「植物の名前当てクイズ」、「森林の多面的機能」、「森林官の仕事」についての講義と「シカと森のカード」というシカと生物多様性について学べるカードゲームを行いました。

まず、アイスブレイクとして「植物の名前当てクイズ」を実施しました。屋久島に生えている樹木を選定し、3択の中から答えを選んでもらいました。正答率が高い樹木もあり、児童の樹木への関心が見られるとともに、とても盛り上がり良いスタートになったと思います。

「森林の多面的機能」についてはクイズやイラストを交えながら、森林と私たちの生活との関わりやヤクシカの現状の説明を行いました。実物のくくり罟を紹介した時は、とても興味を示しており、その後の休憩時間でも多くの質問がありました。

「森林官の仕事」では、現役森林官が、一日のスケジュールを中心に仕事内容についての講義を行い、全く知らなかった森林官という職業について知ってもらう良い機会になったと感じています。

休憩後は、「シカと森のカード」を実践してもらいました。このカードゲームは、森を構成する動植物と、増えすぎると森へ被害を及ぼすヤクシカを捕獲する組織や道具のカードをめくりながら健全な森づくりに挑戦するものです。児童は、カードをめくるたびに一喜一憂し、時にはシカのカードをどう調整するか皆で話し合いながら学び、ゲーム終了後どんな「森」になったか発表してもらいました。

実施後のアンケートで、森林官、森林や林業に興味を持ってくれる児童もあり、充実した森林教室になったと感じています。



クイズに答える生徒（左）、森林官の話に真剣に耳を傾ける（中）、盛り上がった「シカと森のカード」（右）

2025 年 02 月 19 日（水曜日）植生保護柵の補修

島内の国有林 23 箇所にヤクシカによる食害を防ぐため植生保護柵を設置し、植生の回復状況等をモニタリングしています。台風等による倒木で保護柵の破損が発生することから、毎年、委託による保守・点検を実施し、今年度も数箇所破損していることが報告されたので、まず、平瀬国有林のカンカケについて、職員による補修を実施しました。

カンカケ岳から西部林道にかけて設置された植生保護柵の、標高 550m、400m、200m 地点において、植生保護柵に倒れ掛かる倒木の幹や枝の処理、倒されたネットの補修等を行い、柵内にヤクシカが入りプロット内の植物を食害することでモニタリングに影響を及ぼさないようにしました。特に、400m 地点では胸高直径が 80cm 程度のイスノキ 2 本が保護柵を巻き込む形で根返りし、樹冠も保護柵を押しつぶす状態だったため、枝条等を整理して、新たにネットを張り直しました。

当保全センターとしては、適切なモニタリングが継続されるよう今後も、植生保護柵の点検・整備を確実に実施していくこととしています。



被害状況（400m 地点）（左）、ネットの張り直し（中）、倒木処理後（200m 地点）（右）

2025 年 02 月 16 日（日曜日） 令和 6 年度ふるさとセミナー Forestday へ参加

公益財団法人屋久島環境文化財団が主催する「Forestday」は、「森と人との関わり」をテーマに様々な団体と協働し、森と人が織りなす持続可能な循環から「共生と循環」の文化を様々な団体と共創して、島民に広く普及することを目的としています。

屋久島環境文化研修センターにおいて開催され、当日の参加者は約 70 名。当保全センターは屋久島森林管理署と共同で、竹とんぼ作り及び丸太切り体験を実施しました。

竹とんぼ作り体験では、あらかじめ準備した羽と軸を参加者に選んでいただき、紙やすりでより飛ぶように調整し、カラーペンで名前や模様を書いたり色を塗ったりし、思い思いの竹とんぼを作り上げていました。数名は、小刀を使い、削る前の竹から竹とんぼを作っていました。自身で一から削ることにより、作成した竹とんぼに愛着が湧くということでも好評でした。完成した状態の竹とんぼも 20 個ほど持っていきましたが、思っていたより人気があり、半分以上無くなってしまいました。

丸太切り体験では、参加者にスギ等の樹木をノコギリで好きな幅に輪切りにしてもらい、紙やすりで磨き、カラーペンで名前や模様を書き、世界に1つだけのキーホルダーを作ってもらいました。苦勞して伐った丸太を自身の手で加工しキーホルダーを作れたということで、こちらの体験もとても好評でした。

他にも、環境省や屋久杉自然館、木繋プロジェクト、主催の屋久島環境文化財団といった参加団体より、土の中の生き物観察会、ポストカード作り、屋久杉クラフト体験などたくさんの催し物が実施され、盛りだくさんの1日となりました。



思い思いの竹とんぼを作製（左）、選んだ樹木を輪切りに（中）、参加者が作製したキーホルダー（右）

2025年02月14日（金曜日）榕城小学校で森の学習会を実施

種子島ヤクタネゴヨウ保全の会より要請を受け、西之表市立榕城小学校5年生(78名)を対象に、屋久島森林管理署と共同で森の学習会を実施しました。

前半は当保全センターと屋久島森林管理署で3つの講義を行いました。1つ目はアイスブレイクとして行った「植物の名前当てクイズ」です。種子島に実際に生えている樹木を5種選定し出題しました。児童はとて面白い反応をしてくれて、緊張をほぐすことができました。2つ目は「葉っぱの色々」と題し、落葉樹と常緑樹の葉っぱの違いについて実物を見ながら説明するとともに、アコウと榕城小の関係についても講義し、より身近に感じてもらうことができました。3つ目は「種子の広がり」についてです。風、水や動物によって樹木は生息域を拡大していることやヤクタネゴヨウはそれとはまた違う散布方法だということを学んでもらうことができました。

休憩時間には空飛ぶ種の模型（アルソミトラ・マクロカルパ種）を配布したり、講義の中で登場した種子島に生えている樹木等を見てもらったりと実物に触れて体験してもらうことができました。

後半はヤクタネゴヨウ保全の会が講義を行い、絶滅危惧種であるヤクタネゴヨウの利用の歴史や保全活動の取組み、松枯れの原因であるマツノマダラカミキリやマツノザイセンチュウに関して説明がありました。木の中にマツノマダラカミキリの幼虫が侵入しているところを見ることができ、貴重な経験になったと思います。

今回の学習会を通して、少しでも森林やヤクタネゴヨウを含む様々な樹木に興味を持ってくれたら嬉しいです。



「種子の広がり」について説明（左）、樹木に触れて体験（中）、大人気の種の模型（右）

2025 年 02 月 13 日（木曜日）～14 日（金曜日）屋久島世界遺産地域科学委員会等を開催

令和 6 年度第 2 回屋久島世界遺産地域科学委員会とヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議が、2 日間にわたり鹿児島市宝山ホールにおいて開催されました。

●ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議の概要（02 月 13 日）

会議では、(ア)ヤクシカの生息状況等について、(イ)捕獲等の被害防止対策について、(ウ)森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング等について、(エ)特定エリア（西部地域）の対策について、(オ)屋久島世界遺産地域モニタリング計画の改訂について、6 年度の実施結果や 7 年度の事業計画が関係機関より報告され議論が行われました。

ヤクシカの生息状況について、推定個体数は島全体として令和 4 年度から 5 年度にかけては増加したが 6 年度にかけては減少しているとの報告があり、委員及び現場の意見を踏まえ、減少傾向の位置づけとなるが、今後、注視していく必要があるとのことでした。また、最近タヌキの目撃も多いことから、生態調査等が必要ではないかとの意見も出されました。

植生モニタリングについては、植生保護柵内外の植物出現種数の推移等から回復状況にあるのではないかという意見や、大きな台風通過後は保護柵の点検・補修等をしっかり実施してモニタリングに支障の無いようにすることが重要との意見などが出されました。

●屋久島世界遺産地域科学委員会の概要（02 月 14 日）

委員会では、(ア)前回会議の議論整理、(イ)令和 6 年度世界遺産地域モニタリング調査等結果の概要、(ウ)令和 7 年度世界遺産地域モニタリング調査等計画、(エ)令和 6 年度第 2 回ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議、(オ)屋久島世界遺産地域モニタリング計画の改定、(カ)屋久島湿原保全対策、(キ)その他として、弥生杉の今後の取り扱い等が報告さ

れ、各項目ごとに議論されました。モニタリング調査については、西部地域 WG やし尿処理検討部会等の資料を出してほしいとの意見が出されました。また、委員の若返りについては、事務局のサポートやケアの必要性、開催時期の検討等、活発な議論が行われました。



ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議（左）、
科学委員会で挨拶する橘九州森林管理局長（右）

2025 年 02 月 05 日（水曜日）弥生杉コース（白谷雲水峡）通行規制解除（R7.02.05 解除）

台風 10 号の影響を受け通行規制を行っていた白谷雲水峡の「弥生杉コース」については、弥生杉周辺の環境整備（倒伏した弥生杉周辺の枝条整理や折損木等の除去、保護柵設置、う回路整備、看板設置）及びコース全体の整備〔危険木処理（枯損木、倒木、折損木）、崩土除去、歩道の補修・整備〕を行い、先ずは、通行可能な状況となりましたので、令和 7 年 2 月 5 日（水曜日）から、通行規制を解除することとしました。

令和 6 年 8 月末の弥生杉倒伏以降、屋久島の各行政機関や有識者等の皆様方を構成員とした検討会等を開催し、今後の取扱いに係る方針を決め環境整備を行って参りました。約 5 ケ月の間において環境整備等を進める中では、レクリエーションの森保護管理協議会、屋久島町、環境省、請負事業体やガイドの皆様方から貴重な情報やご意見等いただき感謝いたします。

弥生杉は、先端部を含め半分程度が白骨化した状態となっていました。白骨化した部分が旧歩道際に倒れていますが、新しく設置した歩道から間近に観察できますし、倒れた本体も既設歩道から観察することができます。令和 7 年 3 月まで、木製デッキの設置や既設歩道からデッキへ連結する歩道の整備を行うこととしていますので、完成後は、更に近い箇所から観察できることになると考えています。

弥生杉コースの通行規制は解除されますが、白谷雲水峡等を観光される際には、足下に十分ご注意くださいとともにルールやマナーの遵守をお願いします。

当保全センターとしては、今後も地域のニーズや課題等に対し、関係者等と連携し積極的に取り組むこととしていますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。



さつき吊り橋方面へは立入禁止（左）、ルールやマナーを守りましょう（中）、
弥生杉看板の新設(3月中旬披露)（右）